

## 粘着剤、接着剤の国内市場を調査

2014年市場予測（数量ベース、2010年比）

- ・「メタロセンPP樹脂系ホットメルト」80%増...包装用途でEVA樹脂系ホットメルトの代替需要
- ・「シリコーン系接着剤」22%増...耐熱・放熱性優れ、電子部品小型・集積化や自動車電装化に対応

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、あらゆる産業分野で様々な用途に使用され不可欠な接合材料となっている粘着剤、接着剤の国内市場と、世界の主要国・地域における市場動向を調査した。その結果を報告書「2010年 粘・接着剤市場および応用分野の現状と将来展望」にまとめた。

この調査では、粘着剤と接着剤29品目の各市場を分析し今後の予測を行った。さらに、（1）国内市場に加え海外市場規模や、成長著しい中国をはじめとしたアジアの動向分析、（2）合板・木工、包装・製本・紙加工、建築・土木、繊維・皮革、エレクトロニクス、自動車・車両など用途分野別の市場分析、（3）反応形、ホットメルト形、水形、溶剤形、ホルマリン系と形態別の市場分析に加え、参入メーカー30社の事業動向を盛り込むことで、粘着剤、接着剤市場を多角的に捉えた。

### < 調査結果の概要 >

#### 1. 粘着剤、接着剤 国内市場

	2009年	2010年見込	2014年予測	14年/10年
数量	72.3万トン	71.7万トン	71.0万トン	99.0%
金額	2,451億円	2,480億円	2,591億円	104.5%

2009年の粘着剤、接着剤の国内市場は、用途先となる各産業が景気後退の影響を受けたことで需要が減少し、数量は前年比12.5%減の72.3万トン、金額は同15.4%減の2,451億円となった。

2010年の市場は、数量が前年比0.8%減で71.7万トン、金額はプラスに転じ同1.2%増の2,480億円が見込まれる。

用途先となる各産業が海外に生産拠点を移行していることや、建築・土木や包装・製本など比較的内需中心の産業も飽和状態にあり、海外展開を進めていることから、今後の国内市場は大きく上下することはなく、数量、金額とも概ね横ばいの見通しである。2014年の市場は、数量が2010年比1.0%減の71.0万トン、金額が同4.5%増の2,591億円が予測される。

#### 2. 用途分野別内訳（2009年数量）

用途分野	数量	構成比
合板・木工	23.4万トン	32.4%
包装・製本・紙加工	22.2万トン	30.7%
建築・土木	9.2万トン	12.7%
エレクトロニクス	5.9万トン	8.2%
繊維・皮革	5.1万トン	7.1%
自動車・車両	2.9万トン	4.0%
その他	3.6万トン	4.9%

不況の影響を受けにくい食品包装や衛生材料などの用途は需要が安定しているが、合板・木工、建築・土木、繊維・皮革などの用途では需要が減少している。

2010年に大幅な成長が見込まれる用途は、エレクトロニクスである。液晶パネルを始めとしたディスプレイ

関連や、新産業、新エネルギー分野として成長著しいLED関連、太陽電池関連などでの採用増加が牽引する見通しである。需要のある用途は最先端分野が多く、粘着剤や接着剤に対しても高機能化が求められている。

#### <注目市場>

##### 1. メタロセンPP樹脂系ホットメルト

	2009年	2010年見込	2014年予測	14年/10年
数量	4,000トン	5,000トン	9,000トン	180.0%
金額	17億円	21億円	36億円	171.4%

オレフィン系ホットメルト形接着剤の一種で、メタロセン触媒技術を用いたポリオレフィン樹脂(PP)を主成分としている。2006年頃に上市され、ダンボールなどの包装用に採用されている。現状では包装用途以外での実績はない。同用途で従来から使用されているEVA樹脂系ホットメルトと比べ製品単価は高いものの、熱安定性に優れ、少ない塗布量で強度を発揮できる。

2009年に成長した数少ない品目の一つであり、数量が前年比33.3%増の4,000トン、金額が同30.8%増の17億円であった。初期の設備投資として専用アプリケーションが必要であるものの、ノズル詰まりが少なくメンテナンス性に優れている。また、塗布量が少ないことによってトータルでのコストダウンも可能なことから、大手ダンボールメーカーを中心に導入が進んでいる。

今後も、包装用途でEVA樹脂系ホットメルトからのシフトがさらに進むと見られ、市場は順調に拡大していく見通しである。

##### 2. シリコン系接着剤

	2009年	2010年見込	2014年予測	14年/10年
数量	3,400トン	3,600トン	4,400トン	122.2%
金額	170億円	180億円	220億円	122.2%

有機シリコン重合体(オルガノポリシロキサン)を主成分とし、架橋剤、硬化触媒、充填剤等の添加剤を配合したペースト状の製品である。有機シリコン重合体は耐熱性や耐候性に優れ、用途に応じて硬化条件や粘度・流動性などを調整する。シリコン系接着剤のうち、コイルやコンデンサなどの電子部品、自動車ガasket、ECU(エンジン・コントロール・ユニット)などの接着に用いる高機能タイプを対象とした。

2009年の市場は、数量、金額共に前年比10.5%減の3,400トン、170億円であった。エレクトロニクスや自動車・車両用途でこれまで需要を獲得してきたが、景気後退の影響を受け減少した。

しかし、エレクトロニクス用途では電子部品の小型化や集積化により、耐熱や放熱への要求が高まっている。また、自動車用途でもECUでの採用増加や、自動車の電装化に伴って搭載部品に電子制御基板が増加していることから、2010年以降の市場は数量、金額共に年率4~6%程度の成長が予測される。

##### 3. ウレタン系無溶剤形接着剤

	2009年	2010年見込	2014年予測	14年/10年
数量	2.7万トン	2.8万トン	3.2万トン	114.3%
金額	95億円	98億円	112億円	114.3%

脱溶剤化の流れを受けて開発されたウレタンを主成分とする接着剤であり、溶剤を含まない(もしくは極微量残留)環境対応型の接着剤である。被着体の幅が広く、弾力性や耐低温性、耐衝撃性、耐疲労性などに優れる。溶剤形接着剤の代替として、建築・土木用途や自動車用途で需要を獲得してきた。建材工場では初期強度が強い溶剤形接着剤が一部で使用されているものの、建築構造用接着剤や住宅床用接着剤では無溶剤形接着剤の採用がほとんどである。

2009年の市場は、数量が前年比15.6%減の2.7万トン、金額が前年比15.2%減の95億円であった。主要用途である建築・土木と自動車・車両において消費が減少し、市場が大幅に縮小した。

2010年以降は、建築・土木と自動車・車両用途の需要回復や、また、現状では溶剤形接着剤が主流となっている軟包装用途での採用増加が考えられることから、市場は数量、金額共に年率3~4%程度の成長が予測される。建築・土木用途ではシックハウス対策など環境性能や耐熱性、弾力性が活かせる床暖房で、自動車・車両用途では部品の被着体であるオレフィン系樹脂にも接着性の高い製品が開発されており、それぞれ採用増加が期待される。

#### 4. アクリル樹脂系溶剤形粘着剤

	2009年	2010年見込	2014年予測	14年/10年
数量	6.9万トン	8.0万トン	8.7万トン	108.8%
金額	290億円	332億円	374億円	112.7%

アクリル樹脂を主成分とする感圧性接着剤であり、耐熱性、透明性、耐候性などに優れている。特にフィルムに対する粘着性に優れ、粘着剤を塗工したフィルム粘着製品は水、熱といった賦活作用を必要とせず、軽い指圧など弱い圧力で表面に接着出来る。また、接着面を汚染することなくはがし取ることが可能である。溶剤を使用していることから作業環境に負荷が掛かるものの、フィルムの粘着性などの点で溶剤を使用しないエマルジョン形粘着剤より優れていることから、エレクトロニクス用途など粘着性能が重視される分野で使用されている。

2009年の市場は、数量が前年比19.8%減の6.9万トン、金額が前年比19.4%減の290億円であった。液晶パネルなどディスプレイ関係を中心にエレクトロニクス用途で市場が拡大してきたものの、2008年後半からの景気後退により需要が減少し、2009年は用途先が粘着剤の購入を控えたことで、大幅に落ち込んだ。

しかし、液晶パネルの需要回復に伴って、2010年の市場は数量が前年比15.9%増の8.0万トン、金額が14.5%増の332億円と大幅な回復が見込まれる。以後も市場の拡大が続く見通しであるが、主力用途のエレクトロニクスが生産を海外にシフトする動きが見られることや、脱溶剤化の流れもあり、数量、金額共に年率2~3%程度の成長に留まると予測される。

以上

#### <調査対象>

粘着剤、接着剤(29品目)
【反応形】ウレタン系無溶剤形接着剤、エポキシ樹脂系接着剤、弾性接着剤、シリコン系接着剤、シアノアクリレート系接着剤、反応性アクリル樹脂系接着剤(SGA)、嫌気性接着剤、紫外線硬化形接着剤、導電性接着剤、可視光硬化形接着剤
【ホットメルト形】エラストマー系ホットメルト、EVA樹脂系ホットメルト、メタロセンPP樹脂系ホットメルト、オレフィン系ホットメルト、反応型ホットメルト、ポリエステル系ホットメルト、ポリアミド系ホットメルト
【水性形】酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形接着剤、アクリル樹脂系エマルジョン形粘着剤、アクリル樹脂系エマルジョン形接着剤、EVA樹脂系エマルジョン形接着剤、水性高分子-イソシアネート系接着剤、-オレフィン無水マレイン酸樹脂系接着剤
【溶剤形】アクリル樹脂系溶剤形粘着剤、ウレタン系溶剤形接着剤、CR系溶剤形接着剤
【ホルマリン系】ユリア樹脂系接着剤、フェノール樹脂系接着剤、メラミン樹脂系接着剤

#### <調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査

#### <調査期間>

2010年1月~2010年3月

資料タイトル	: 「2010年 粘・接着剤市場および応用分野の現状と将来展望」
体裁	: A4判 269頁
価格	: 97,000円 (税込み101,850円)
調査・編集	: 富士経済 東京マーケティング本部 ケミカル&マテリアルグループ TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: <a href="http://www.group.fuji-keizai.co.jp/">http://www.group.fuji-keizai.co.jp/</a> <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/">https://www.fuji-keizai.co.jp/</a>